

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	定時株主総会については3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
剰余金の配当受領株主確定日	期末配当金については3月31日 中間配当金については9月30日 (当期は中間配当を実施しておりません。)
単元株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(郵便物送付先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
証券・銘柄コード	7458

<お知らせ>

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙、及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
3. 当社は、貸借対照表及び損益計算書並びに連結貸借対照表及び連結損益計算書を当社ホームページ (<http://www.dkkaraoke.co.jp>) に掲載しております。

全日本カラオケグランプリ 2006

日本最高峰のカラオケNo.1は誰の手に? 賞金・賞品総額 **1,000万円**

国内最大級のカラオケイベント「全日本カラオケグランプリ2006」が11月25日(土)に開催されました。昨年11月より約1年間かけて募集を行ったところ大変多くの方にご応募いただきました。全国8ヶ所で予選会を行い、ハイレベルな戦いを経て地区代表者27名が決勝大会へ進出し、アマチュアシンガーNO.1を決定いたしました。大会の様子は、テレビ放映を予定しております。プロ顔負けの歌唱力と華やかなステージをぜひご覧下さい。



— テレビ放映決定!! 2006年12月17日(日) —

テレビ東京系列全国ネット6局他 16:00~17:15(予定)

司会: 中山秀征・大江麻理子(テレビ東京アナウンサー)

ゲスト: 細川たかし・伍代夏子・長保有紀・鳥津亜矢



ECHO

Vol.22 第32期 中間決算のご報告
2006年4月1日～2006年9月30日

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

また、平素は当社グループの事業活動に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第32期中間期（2006年4月1日～2006年9月30日）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社グループは創業以来、社是である「もっと音楽を世に もっとサービスを世に」を実現するため、現場第一主義を貫き、カラオケを歌うエンドユーザーのニーズにお応えするべく努力してまいりました。また、こうしたたゆまぬ努力により、顧客やエンドユーザーの支持を得、業界のリーディングカンパニーとして確固たる地位を保ち続けてまいりました。

更に近年では、エンドユーザーが時代に呼応した質の高いエンターテインメント性を求めていることから、主力である業務用カラオケ事業を核として、カラオケ・飲食店舗事業、モバイル関連事業、音楽レコード事業、衛星放送事業等を有機的に連携させていくことにより、こうしたニーズに積極的に対応いたしております。

このように、音楽文化を守り、歌うことの素晴らしさを伝えることで、世の中に楽しさや明るさを届けること。そして企業経営の観点では、良好な財務実績を維持しながら、将来に備えた投資と技術開発の基盤を整備し、今後も安定的に利益を生み出すこと。これらの企業活動が、当社グループを支えてくださる株主・投資家の方々への利益還元や、企業としての社会貢献に繋がるものと考えております。

今後もこれらの積極的な企業活動を通じ、皆様のご期待にお応えできるよう、社業の一層の発展に向け邁進する所存であります。

株主の皆様におかれましては、何卒変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当中間期の概況

当中間期のわが国経済は、原油価格の高騰や金利上昇の懸念など不安要素はあったものの、企業収益の改善を背景に、設備投資や個人消費がけん引役となり、景気は回復基調で推移いたしました。

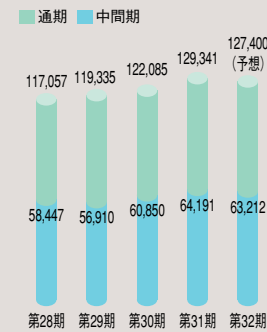
当カラオケ業界におきましては、スナック・クラブなどのナイト市場が未だ軟調に推移する一方、カラオケボックスなどのデイ市場では、飲食店・アミューズメント施設等との複合店を出店するなど、集客の回復を目指した事業展開が行われております。また、市場全体の通信カラオケ稼働台数が横ばいで推移するなか、カラオケ機器の新機種への更新は継続しており、特に顧客ニーズの多様化に対応できるブロードバンド対応機種への需要は、以前にも増して高まってきております。

このようななか、当社グループにおきましては、これまで築き上げた業務用ネットワークの拡大とそのブロードバンド化を進めるため、「ブロードバンドサイバーDAM」シ

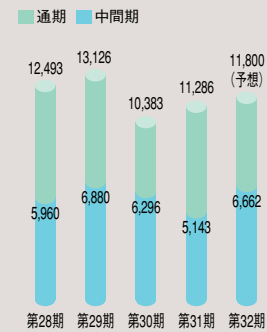


代表取締役社長 和田 康孝

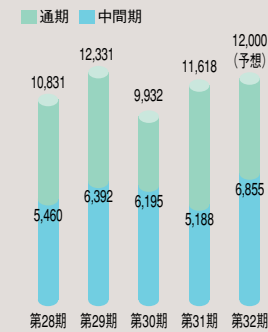
連結売上高 (単位: 百万円)



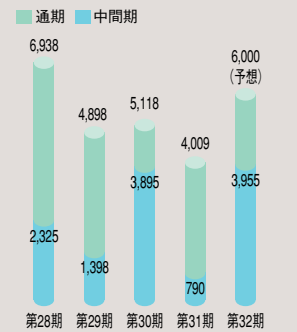
連結営業利益 (単位: 百万円)



連結経常利益 (単位: 百万円)



連結中間(当期)純利益 (単位: 百万円)



リーズを中心に商品の販売及び賃貸の拡大に注力してまいりました。また、カラオケルームと飲食店の複合店舗展開を進め集客の回復に努めるなど、各事業へ積極的に取り組み、業容の拡大と収益の増大を目指してまいりました。

以上の結果、当中間期の売上高は63,212百万円（前年同期比1.5%減）となりました。一方、利益面におきましては、固定費の削減による事業効率の向上に取り組んできたカラオケ・飲食店舗事業の大幅な増益や、ゲートウェイ事業の赤字幅の改善などもあり、営業利益は6,662百万円（同29.5%増）、経常利益6,855百万円（同32.1%増）となり、また減損損失の減少や税負担が減少したことから、中間純利益は3,955百万円（同400.4%増）といずれも大幅な増加となりました。

通期の見通し

今後の経済環境につきましては、米国や中国の景気動向のほか原油価格や金利情勢など不透明感に残るものの、景気は緩やかながら拡大基調で推移していくものと思われま

す。当社を取り巻く事業環境におきましては、メーカー間の再編が概ね収束するなか、当社が業界に先駆け展開してきたブロードバンドサービスに、競合メーカーも追随してきていることから、今後は当業界においてもブロードバンドを活用したサービスが必須なものになると予想されます。

このようななか、当社グループにおきましては、上期に引き続き業務用ネットワークのブロードバンド化に注力してまいります。また、主力であるカラオケ事業を中心に既存事業の深耕を図るとともに、新たなビジネス領域の拡大に向けた商品とサービスを供給し、業容の拡大と収益の増大を目指してまいります。

通期の業績につきましては、売上高1,274億円、経常利益120億円、当期純利益60億円を計画しております。

企業価値の最大化を目指し、グループとしてコーポレートガバナンスを強化してまいります

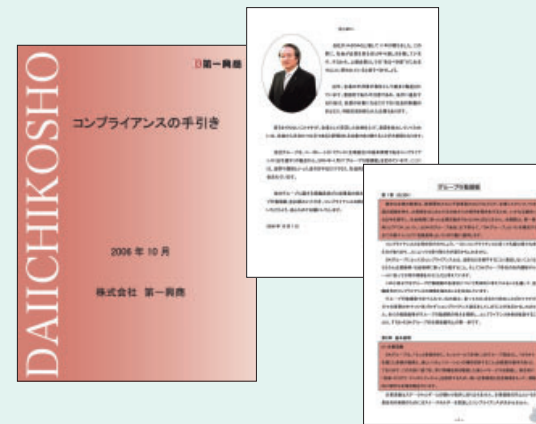
基本的な考え方

当社及び当社グループは、株主・顧客・取引先等をはじめとする様々なステークホルダーの負託に応え、企業価値の最大化を目指すことを経営の基本方針としております。一方、これを実行するには、コンプライアンス（法令遵守）のもと、リスク管理・内部統制に注力しつつ、経営の効率性と透明性を高めるなど、コーポレートガバナンスの強化が重要であると認識しております。

このため、コンプライアンスにつきましては、役員及び従業員がとるべき行動基準を定めた「第一興商グループ行動規範」に従い、単に法令や社内ルールの遵守にとどまらず、社会倫理・道徳を尊び、社会の一員であることを自覚した企業行動を取ってまいります。また、リスク管理・内部統制につきましては、当社の「内部統制システム整備の基本方針」に則り、有効な内部管理体制をグループとして随時整備・構築し、運用してまいります。併せて、適時・的確な情報開示を行うとともに、トップマネジメントによる積極的なIR活動を行うほか、ステークホルダーに対する説明責任を果たしていくことによって、コーポレートガバナンスの強化を図ってまいります。

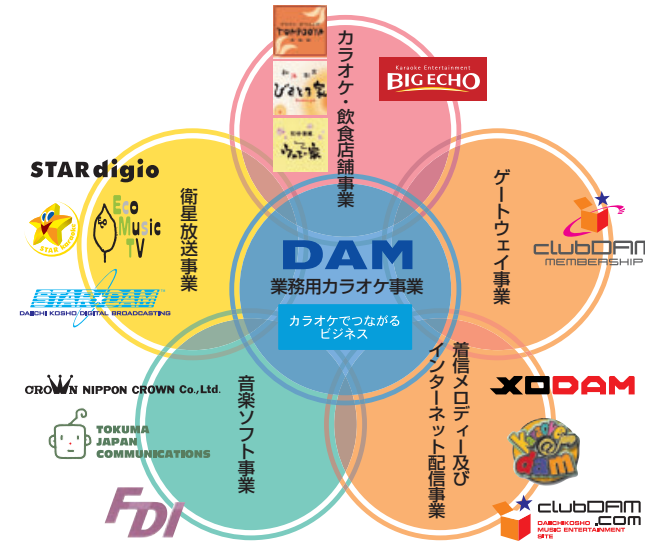
コンプライアンスについて

2006年6月1日付けで当社に「内部統制推進室」を新設いたしました。また、10月1日には「第一興商グループ行動規範」を基本とした「コンプライアンスの手引き」を作成し、全従業員に対して周知徹底を図っております。今後もあらゆるステークホルダーの負託に応えられるよう、役員及び従業員一人ひとりが強い自覚と倫理観を持って行動してまいります。

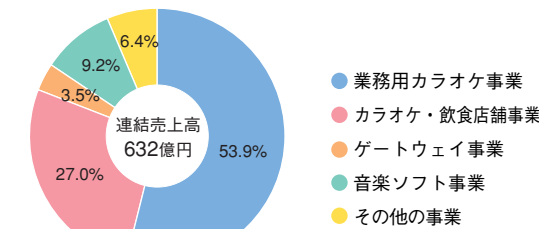


～カラオケを中心としたエンターテインメントを提供～

(2006年9月30日現在)



●連結売上高構成比



●セグメント別売上高構成比

セグメント	業務用カラオケ事業	カラオケ・飲食店舗事業	ゲートウェイ事業	音楽ソフト事業	その他の事業
売上高	34,065	17,046	2,246	5,834	4,018
営業利益	5,843	1,989	△715	29	882

(百万円)

- **業務用カラオケ事業**
業務用カラオケ機器・カラオケソフトの販売及び賃貸、並びに通信カラオケへの音源及び映像の提供を行っております。セグメントは業務用カラオケ事業に属しております。
- **カラオケ・飲食店舗事業**
カラオケルーム「ビッグエコー」を216店舗（国内210店・海外6店）、飲食店舗を57店舗（国内56店・海外1店）展開しております。セグメントはカラオケ・飲食店舗事業に属しております。
- **ゲートウェイ事業**
「ブロードバンドサイバーDAM」と情報端末「DAMステーション」の融合によるブロードバンドを活用した双方向コンテンツサービスの提供などを行っております。セグメントはゲートウェイ事業に属しております。
- **着信メロディー及びインターネット配信事業**
携帯電話向け着信メロディー配信を中心とした様々なコンテンツ配信サービスを行うほか、カラオケのインターネット配信サービスを行っております。セグメントはゲートウェイ事業に属しております。
- **音楽ソフト事業**
音楽レコード会社2社及び販売会社1社並びに映像制作会社1社において音楽・映像ソフトの制作、販売を行っております。また、音楽出版社4社において著作権管理を行っております。セグメントは音楽ソフト事業に属しております。
- **衛星放送事業**
衛星デジタル放送「スカイパーフェクTV！」をプラットフォームとし、テレビ2ch、ラジオ100chのサービスを行っております。セグメントはその他の事業に属しております。
- **その他の事業**
主に不動産賃貸事業を行っており、セグメントはその他の事業に属しております。

業務用カラオケ事業

当事業におきましては、業務用ネットワークのブロードバンド化を進めるため、その対応機種である「DAM-G100」及び「DAM-G70」を中心に全方位での拡販に注力いたしました。また、メーカー間の競争激化に伴い商品の価格低下が進行するなか、当社においては出荷促進とシェア拡大に向け、新年度より卸売価格の改定を行うなど販売施策の見直しを行い、その影響から商品売上高は減少いたしました。一方、賃貸単価の低下から機器賃貸収入は僅かに減少したものの、カラオケコンテンツ等の情報提供契約の累計契約件数が増加していることから、情報提供料収入は増加いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比7.7%減少となり、

営業利益は前年同期比8.6%減少となりました。

今後の取り組みにつきましては、商品の価格低下が進行するなか、競合メーカーは新商品を市場投入し、また当社と同様のサービスをもって追随してきていることから、これまで以上に競争が激化し市場環境は一層厳しくなるものと予想しております。しかしながら、当社はユーザーニーズに的確に対応した「DAM」シリーズを開発し、また業界最高水準の品質を誇る音源・映像のコンテンツ制作を継続していくことで、今後も「DAM」ブランドの更なる価値向上を図り、通信カラオケでのトップシェアの維持・拡大を目指してまいります。

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	36,897	34,065	△2,832	△7.7%
営業利益	6,391	5,843	△547	△8.6%

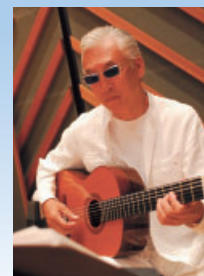
(百万円)

主要数値

	単位	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
DAM出荷台数	千台	24	19	△5	△21.1%
機器賃貸契約件数	千件	54	55	1	2.7%
DAM稼働台数	千台	208	209	1	0.7%
(うちブロードバンド稼働台数)	千台	(60)	(76)	(16)	26.7%

業界のリーディングカンパニーとしてあらゆる世代に向け、カラオケの楽しさを提供してまいります！

● 楽曲と映像コンテンツの強化 「DAM」が提供する付加価値の高いコンテンツ



▲美野 春樹
◀斉藤 功



▲東方神起
◀BONNIE PINK

これまで以上に徹底した音質へのこだわり！
臨場感あふれる「生音演奏」楽曲を豊富に搭載。約6,000曲（2006年10月末現在）

「BONNIE PINK」や「東方神起」をはじめとした人気アーティストの迫力あるライブ映像や当社運営のライブレストランでのオリジナル映像を続々配信。

● “カラオケを摂ろう” 発行

カラオケで歌うと体にうれしい
ことがたくさんあります

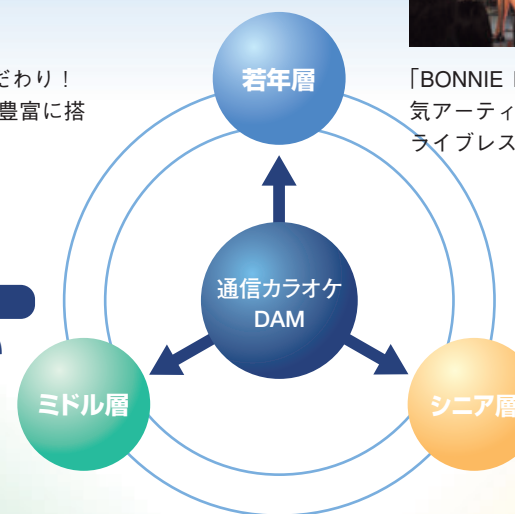
「カラオケは、サラダのようなもの」をキャッチフレーズに医学博士、周東寛先生監修のもとカラオケを健康的に楽しむ方法をガイドブックにしました。

カラオケを歌うと…

- ストレス解消
- 脳内ホルモンの活性化
- アンチエイジング効果



ガイドブックは、DAM設置店舗等に配布しております。健康な毎日を送るためにぜひご覧ください。



● エルダースステムのラインナップ強化

「DAM-G70」に搭載

音楽・体操プログラムなど音楽療養を目的としたコンテンツを「DAM-G100」に加え、「DAM-G70」にも搭載！
高齢化社会へ音楽を通じて健康な生活をサポート！



カラオケ・飲食店舗事業

当事業におきましては、カラオケルーム「ビッグエコー」と飲食店舗の積極的なスクラップアンドビルド（ビッグエコー：出店8 閉店7、飲食店舗：出店11 閉店2）を実施いたしました。この結果、当中間期末現在でビッグエコー216店舗（国内210店舗、海外6店舗）、飲食店は14ブランドの57店舗（国内56店・海外1店）が稼働しております。また、このうちビッグエコーと飲食店の複合店舗は前中間期末の2店舗から16店舗に拡大しており、その収益寄与は着実なものとなってきております。

以上の結果、当事業の売上高は、西日本で集中豪雨などの影響を受けたものの、飲食店舗数が増加したことから、前年同期

比8.0%増加となり、また前下期より開始した複合店舗による効率化や、固定費をはじめとする様々なコスト削減の効果が確実に現れてきていることから、営業利益は前年同期比114.5%と大幅な増加となりました。

今後の取り組みにつきましては、ビッグエコーの多店舗展開と飲食店との複合型店舗展開を積極的に進めてまいります。また、10月にはビッグエコーのグランドメニューを一新し、既存店売上高の改善やブランド力の向上を図るほか、新業態の店舗開発も進めてまいります。今後も顧客満足度を高め、集客力の向上と収益の拡大を目指してまいります。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	15,781	17,046	1,265	8.0%
営業利益	927	1,989	1,061	114.5%

主要数値

	単位	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
ビッグエコー店舗数	店	214	210	△4	△1.9%
(うち複合店舗数)	店	(2)	(16)	(14)	700.0%
// ルーム数	ルーム	6,244	6,209	△35	△0.6%
飲食店舗数	店	32	56	24	75.0%
// 座席数	席	3,943	6,606	2,663	67.5%

(注) 上記数値には海外店舗を含んでおりません。

ビッグエコー飲食メニューを一新

当社グループは、サービスの向上を図るため10月よりカラオケルーム「ビッグエコー」のメニューを一新いたしました。従来のカラオケ飲食のイメージを取り払うべくレストラン級の本格的な味付けと盛り付けをベースに様々なメニューを展開してまいります。



▲グッチ裕三
▼カレーナンです

「グッチ裕三」プロデュース

幅広い層に人気があり、自らの料理番組を持つタレント「グッチ裕三」氏のアイデア料理がお楽しみいただけます。

おすすめスイーツ&ドリンク

セレドルとして人気のモデル「マリエ」さんが選んだマンゴーのケーキやプリンを中心にしたスイーツと、舞台やテレビで活躍している女優「高松あい」さんが選んだカクテルを取り揃えました。



マリエ



高松あい



BIGヘルシーチキン

「ビッグエコー」オリジナル

食材を厳選し、カロリー表示やアレルギー表示を記載するなど健康にこだわりました。

当社ダイニングバーとのコラボレーション

当社が展開する人気のダイニングバー「花咲酒蔵「ウメ子の家」、和洋創菜「びすとろ家」、アジアンダイニング「TOMPOOYA (東風家)」などのメニューが味わえます。



ズワイガニのあんかけ炒飯

新業態店舗の拡大

今年3月にオープンしたライブレストラン「HIT STUDIO 60's」に引き続き10月にはビッグエコー上野広小路店ビルに「HIT STUDIO 70's 旅のつづき…」をオープンしました。これにより、ビッグエコーとの相乗効果を図り、収益拡大を目指してまいります。

フォーク居酒屋「HIT STUDIO 70's 旅のつづき…」

ブーム再来を予感させる“フォークソング”をメインテーマとしたステージを楽しみながら、料理やお酒を楽しめる居酒屋です。フォークシンガーでプロデューサーでもある国安修二氏が、音楽のプロデューサーから店舗の運営までも務めるといふ初の試みです。様々なアーティストをゲストとして迎えるほか、腕やノドに自信のあるお客様がステージで演奏し、歌うことができるなど楽しい空間と充実した時間を提供してまいります。

住 所：東京都台東区上野2-6-12 B1F

T E L：03-5846-5111

営業時間：17:00～23:30(年中無休・日曜はレンタルスペース営業)



NEWS



2006年3月にビッグエコー八重洲本店の1Fに複合店としてオープンした「アイリッシュパブ“CELTs”(ケルツ)」にブレンダン・スキャネル駐日アイルランド特命全権大使より感謝状が授与されました。今後も、アイルランド産の食材を使った料理やドリンク、アイルランドの音楽などを通じて文化の普及に貢献してまいります。

ゲートウェイ事業

当事業におきましては、携帯電話向けコンテンツ配信サービスと情報端末「DAMステーション」によるブロードバンドコンテンツサービスを行っております。

携帯電話向けサービスにおきましては、「着うた®」及び「着うたフル®」が急速に普及する一方、主力サービスである「着信メロディー」の加入者数が減少していることから、減収となりました。

一方、「DAMステーション」のコンテンツサービスは、ブロードバンドを活用したカラオケの新しい遊び方として定着し始めており、また通信カラオケ「DAM」の差別化に大きく寄与しております。更に、その認知度も向上していることから、端末の利用会員数が引き続き伸びており、これに伴うコンテン

ツ収入も増加しております。

以上の結果、当事業の売上高は、携帯電話向けサービスの収入が減少したことから前年同期比9.0%減少となったものの、営業費用の大幅な圧縮により営業損失は前年同期に比べ640百万円の改善となりました。

今後の取り組みにつきましては、コンテンツの利用を促進するほか、引き続き有力コンテンツの開発や調達をコンテンツホルダーとのアライアンスを含め強化してまいります。また、下期には業務用マーケットで需要が高まっているオーダーリングシステムを投入し、事業の新たな可能性と需要の創出に積極的に取り組んでまいります。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	2,469	2,246	△222	△9.0%
営業損失	△1,355	△715	640	—

主要数値

	単位	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
着信メロディー等有料会員数	千人	2,529	1,986	△543	△21.5%
DAMステーション稼働台数	千台	11	18	7	57.4%
club DAM MEMBERSHIP会員数	千人	797	1,379	582	73.0%
有料コンテンツ利用回数	千回	223	847	624	279.7%
無料コンテンツ利用回数	千回	3,655	11,875	8,220	224.9%

「DAMステーション」サービスの強化
顧客満足度を高めるため

- ① トップ画面のデザインを変更
- ② 各種コンテンツサービスを強化

オススメ
コンテンツ

■ **お店対抗ランキングバトル** (ナイト・カラオケ喫茶限定)
全国のお店と得点を競い合う人気の採点ゲームで、新たに都道府県別ランキング表示が可能に！また、全国1位から3位に入賞したお店に毎月進呈している副賞（豪華景品）もグレードアップ！！

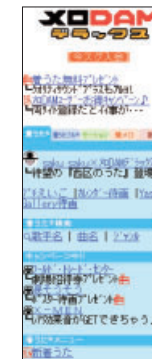
■ **ビッグエコーにて
オーダーリングサービス開始！**

これまでの「DAMステーション」にオーダー機能を搭載し、1台2役に！
楽しいコンテンツとともに美味しい料理をぜひDAMステーションでお試ください。



オーダーリング事業の共同出資会社を設立

当社は、2006年8月に情報端末「サブリバ」を活用した事業を行う「(株)JDクリエイイト」をソフトバンクテレコム社と共同で設立いたしました。
ソフトバンクテレコム社は、これまでオーダー機能を持ったブロードバンド情報端末を活用したコンテンツ配信事業を展開しており、飲食業界から高い評価を得ております。また、当社グループは、カラオケ市場の業務用ネットワークにおいて情報端末「DAMステーション」を活用し、エンターテインメントコンテンツを配信しております。
新会社は、両社の持つマーケットやビジネスモデルを活かす端末やサービスを企画・開発し、コンテンツ配信事業や「サブリバ」の販売を行ってまいります。

携帯電話向け新サービス
着うた®サイト「メロDAMデラックス」を開始ここが
ちがう！■ **充実の着うた®・着ムービーコンテンツ**

- ① J-POPや演歌、外国曲など豊富なジャンルの着うた®や着ムービーを配信
- ② サザンオールスターズの着うた®を全曲配信（全曲配信はメロDAMとサザンオールスターズの公式サイトのみ）
- ③ 第一興商だからできるカラオケ、歌詞コンテンツ、ラジオ番組などを配信

対応機種：iモード EZweb Yahoo!ケータイ
曲数：着うた®(10,000曲)・着うた®フル(540曲)・着ムービー(3,300曲)
※2006年10月現在



サブリバ
(サブリメント・バラエティ)
飲食店向けオーダーリング
システム

JD CREATE

株式会社 JDクリエイイト (東京都港区)
代表者：代表取締役社長 小原宏之
資本金：3億円
出資比率：ソフトバンクテレコム(株) 51%
(株)第一興商49%

音楽ソフト事業

当事業におきましては、レコード子会社である日本クラウン(株)の「Gackt」や(株)徳間ジャパンコミュニケーションズの「リュ・シウォン」をはじめとする主力アーティストの商品販売が堅調に推移するほか、音楽配信による着実な収益への貢献もありました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比4.9%増加となりましたが、廃棄商品が増加したことから、営業利益は前年同期

比44.3%減少いたしました。

今後の取り組みにつきましては、黒字の定着化を目指し、更なる経営の効率化を図ってまいります。また新人アーティストの発掘・育成及びヒット曲の創造については、引き続き当社グループの総合力を活かした積極的なプロデュース活動を展開してまいります。

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	5,562	5,834	271	4.9%
営業利益	52	29	△23	△44.3%

TOPICS

PICK UPアーティスト

北島 三郎

今年で芸能生活45周年を迎え、記念シングル第5弾「あの日時代/暦」をリリース。あわせて、復刻盤シリーズとして当時のレコードジャケット写真とオリジナル音源を用いたシングル10タイトルを発売。また本人が司会を務める歌番組「サブちゃんと歌仲間」も好評オンエア中で今秋にはDVDを発売!!



ゲド戦記

おなじみのスタジオジブリシリーズ、宮崎吾郎第一回監督作品「ゲド戦記」のサウンドトラックを発売。この作品は、シーンごとに地域性や土着性を音に表し、どこかエスニックな香りを漂わせ、更にバグパイプを加えたことにより、世界の広がりを感じさせてくれる感動の1枚。



Ryu Siwon

(リュ・シウォン)

テレビや雑誌でかつてない人気を誇る韓国俳優「リュ・シウォン」。今秋には、待望のニューシングル「Only One」や今年の夏に行われた日本ツアーの映像やスペシャルインタビューなどを収録したDVD「Ryu Siwon Japan Live Tour 2006」を発売。来年のドラマ出演が決まり、今後も目が離せません!



その他の事業

当事業におきましては、「スカイパーフェクTV!」をプラットフォームとする衛星放送事業と不動産賃貸事業を含むその他の事業を行っております。衛星放送事業におきましては、業務用サービスの契約件数が横ばいで推移しておりますが、民生用サービスについては「スカイパーフェクTV!」のバックサービスが見直されたことから大幅に増加しており、またコスト削減の継続によって安定した収益を確保しております。また、不

動産賃貸事業、パーキング事業、物販などの事業も堅調に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比15.5%増加となり、営業利益は前年同期比1.1%の増加となりました。

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	3,480	4,018	538	15.5%
営業利益	872	882	9	1.1%

(百万円)

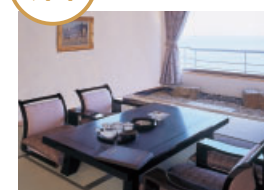
TOPICS

新規事業

「うたゆの宿 伊豆南熱川ホテル」
7月3日 OPEN !!

当社グループでは、リーズナブルな価格設定かつ本格的な施設・サービスを提供するとともに、当社のノウハウを活かしたカラオケ施設を併設し、付加価値の高い宿泊施設の運営事業を始めました。

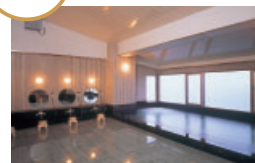
泊 365日リーズナブルな同一料金



●お一人様1泊2食付
●1室3名様以上(1室2名様は7,800円)
6,800円
全室から伊豆の青い海を眺められるオーシャンビュールームは、全てバス・トイレ付き。10畳以上の広い客室は禁煙ルームもご用意しております。

湯

自慢の天然温泉



大浴場・露天風呂・足湯、全てのお風呂から太平洋や伊豆大島を眺めながら入浴していただけます。

遊

カラオケ「BIG ECHO」
—充実した館内施設—

最新鋭DAMを完備したカラオケルームは5部屋あり、19時まで無料*(時間制限あり)。広々とした個室は、大人数でも楽しんでいただけます。
※19時以降は、1室:1時間500円

食

和・洋・中バイキング
—ソフトドリンク飲み放題—

お食事は朝夕バイキング形式となっており、旬の食材を取り入れた豊富なメニューを取り揃えています。海の見えるレストランでゆっくり楽しんでいただけます。

●住所：静岡県賀茂郡東伊豆町片瀬1139

●ご予約・お問合せ(フリーダイヤル)0120-549-026 ●ホームページ：<http://www.utayu.com>

●中間連結貸借対照表の要旨

科 目	第32期中間 2006年9月30日現在	第31期 2006年3月31日現在	対前期末 増減額
資産の部			
流動資産	50,162	49,965	196
固定資産	84,583	83,558	1,024
有形固定資産	48,512	47,638	873
無形固定資産	7,456	7,950	△ 493
投資その他の資産	28,614	27,969	644
資産合計	134,745	133,524	1,221
負債の部			
流動負債	38,043	37,815	227
固定負債	28,246	28,502	△ 256
負債合計	66,289	66,318	△ 29
少数株主持分			
少数株主持分	—	764	△ 764
資本の部			
資本金	—	12,350	△ 12,350
資本剰余金	—	24,003	△ 24,003
利益剰余金	—	32,029	△ 32,029
土地再評価差額金	—	△ 845	845
その他有価証券評価差額金	—	2,354	△ 2,354
為替換算調整勘定	—	188	△ 188
自己株式	—	△ 3,639	3,639
資本合計	—	66,440	△ 66,440
負債、少数株主持分及び資本合計	—	133,524	△ 133,524

(単位：百万円)

科 目	第32期中間 2006年9月30日現在	第31期 2006年3月31日現在	対前期末 増減額
純資産の部			
株主資本			
資本金	12,350	—	12,350
資本剰余金	24,003	—	24,003
利益剰余金	34,825	—	34,825
自己株式	△ 3,641	—	△ 3,641
株主資本合計	67,537	—	67,537
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	782	—	782
土地再評価差額金	△ 845	—	△ 845
為替換算調整勘定	194	—	194
評価・換算差額等合計	131	—	131
少数株主持分	786	—	786
純資産合計	68,456	—	68,456
負債純資産合計	134,745	—	134,745

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結貸借対照表について

2006年5月1日施行の会社法により、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。単体も同様です。

POINT

流動資産

流動資産の増加196百万円は、現金及び預金の増加3,107百万円及びたな卸資産の減少1,903百万円、繰延税金資産の減少1,012百万円が主なものであります。

固定資産

固定資産の増加1,024百万円は、繰延税金資産の増加759百万円及びカラオケ賃貸機器の増加323百万円が主なものであります。

流動負債

流動負債の増加227百万円は、未払法人税等の増加485百万円、賞与引当金の増加297百万円及び短期借入金の減少613百万円が主なものであります。

固定負債

固定負債の減少256百万円は、繰延税金負債の減少600百万円及び長期借入金の増加278百万円、役員退職慰労引当金の増加111百万円が主なものであります。

●中間連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	第32期中間 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	第31期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	対前年同期比 (%)
● 営業収益	63,212	64,191	98.5
営業費用	56,594	59,089	95.8
割賦販売未実現利益	45	41	
● 営業利益	6,662	5,143	129.5
営業外収益	902	1,067	
営業外費用	710	1,022	
経常利益	6,855	5,188	132.1
特別利益	115	546	
特別損失	488	2,860	
税金等調整前中間純利益	6,483	2,874	225.6
法人税、住民税及び事業税	1,776	1,106	
法人税等調整額	722	983	
少数株主利益(△損失)	28	△ 6	
● 中間純利益	3,955	790	500.4

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

〈注記事項〉	第32期中間	第31期中間
1. 有形固定資産の減価償却累計額	48,885百万円	48,023百万円
2. 保証債務	766百万円	885百万円
3. 担保提供資産	15,008百万円	13,755百万円
上記に対応する債務	9,940百万円	11,623百万円
4. 1株当たり中間純利益	56円82銭	22円71銭
5. 1株当たり純資産	972円26銭	1,787円00銭

※当社は2006年7月1日をもって普通株式1株を2株に分割しており、1株当たり指標については株式分割が当期首に行なわれたものとして算出しております。

POINT

営業損益 (●)

カラオケ事業を核として積極的に各事業に取り組んだ結果、営業収益は前年同期比98.5%、63,212百万円となりました。一方、利益面におきましてはカラオケ・飲食店舗事業の大幅な増益やゲートウェイ事業の赤字幅の改善などにより営業利益は前年同期比129.5%、6,662百万円と大幅な増加となりました。

中間純利益

特別損失において、土地・建物及びカラオケルーム店舗等の減損損失が2,160百万円減少したことや税負担が減少した結果、中間純利益は前年同期比500.4%、3,955百万円と大幅な増加となりました。

●中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	第32期中間 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	第31期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,572	10,119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,058	△ 10,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,388	2,343
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	46
現金及び現金同等物の増加額	3,150	1,693
現金及び現金同等物の期首残高	24,222	22,428
新規連結子会社の増加に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1,398
現金及び現金同等物の中間期末残高	27,372	25,520

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・税金等調整前中間純利益
.....6,483百万円
- ・減価償却実施額
.....7,598百万円

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・有形固定資産の取得による支出
.....6,613百万円
- ・投資有価証券の取得による支出
.....2,909百万円

財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・長期借入金の返済による支出
.....7,328百万円
- ・配当金の支払額
.....1,043百万円
- ・長期借入による収入
.....7,405百万円

●中間連結株主資本等変動計算書

第32期中間 (2006年4月1日から2006年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産合 計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	土地再評 価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	12,350	24,003	32,029	△ 3,639	64,743	2,354	△ 845	188	1,697	764	67,205
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当(注)			△ 1,044		△ 1,044						△ 1,044
役員賞与(注)			△ 115		△ 115						△ 115
中間純利益			3,955		3,955						3,955
自己株式の取得				△ 1	△ 1						△ 1
自己株式の処分		0		0	0						0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 1,571	—	6	△ 1,565	21	△ 1,544
中間連結会計期間中の変動額合計	—	0	2,795	△ 1	2,794	△ 1,571	—	6	△ 1,565	21	1,250
2006年9月30日残高	12,350	24,003	34,825	△ 3,641	67,537	782	△ 845	194	131	786	68,456

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

中間連結株主資本等変動計算書について

2006年5月1日施行の会社法により、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、連結貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、ご報告するために作成する計算書類です。単体も同様です。

●中間単体貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	第32期中間 2006年9月30日現在	第31期 2006年3月31日現在	対前期末増減額
資産の部			
流動資産	28,619	27,486	1,133
固定資産	54,929	55,144	△ 214
有形固定資産	19,916	19,783	133
無形固定資産	6,807	7,327	△ 519
投資その他の資産	28,204	28,033	171
資産合計	83,548	82,630	918
負債の部			
流動負債	17,493	16,912	580
固定負債	12,663	12,547	116
負債合計	30,157	29,460	696
資本の部			
資本金	—	12,350	△ 12,350
資本剰余金	—	24,003	△ 24,003
利益剰余金	—	18,959	△ 18,959
土地再評価差額金	—	△ 845	845
その他有価証券評価差額金	—	2,342	△ 2,342
自己株式	—	△ 3,639	3,639
資本合計	—	53,169	△ 53,169
負債資本合計	—	82,630	△ 82,630
純資産の部			
株主資本			
資本金	12,350	—	12,350
資本剰余金	24,003	—	24,003
利益剰余金	20,751	—	20,751
自己株式	△ 3,641	—	△ 3,641
株主資本合計	53,463	—	53,463
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	773	—	773
土地再評価差額金	△ 845	—	△ 845
評価・換算差額等合計	△ 72	—	△ 72
純資産合計	53,391	—	53,391
負債純資産合計	83,548	—	83,548

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●中間株主資本等変動計算書

第32期中間 (2006年4月1日から2006年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本							評価・換算差額等				純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	土地再評 価差額金		評価・ 換算差額 等合計
		資本準 備金	その他資 本剰余金	資本剰余 金合計	任意 積立金	繰越利益 剰余金	利益剰余 金合計						
2006年3月31日残高	12,350	4,002	20,000	24,003	16,603	2,356	18,959	△ 3,639	51,673	2,342	△ 845	1,496	53,169
中間会計期間中の変動額													
剰余金の配当(注)							△ 1,044		△ 1,044				△ 1,044
役員賞与(注)							△ 20		△ 20				△ 20
中間純利益							2,856		2,856				2,856
自己株式の取得								△ 1	△ 1				△ 1
自己株式の処分			0	0				0	0				0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)										△ 1,568	—	△ 1,568	△ 1,568
中間会計期間中の変動額合計	—	—	0	0	—	1,792	1,792	△ 1	1,790	△ 1,568	—	△ 1,568	221
2006年9月30日残高	12,350	4,002	20,000	24,003	16,603	4,148	20,751	△ 3,641	53,463	773	△ 845	△ 72	53,391

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

●中間単体損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	第32期中間 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	第31期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	対前年同期比 (%)
営業収益	43,715	45,485	96.1
営業費用	39,430	42,459	92.9
割賦販売未実現利益	8	12	
営業利益	4,293	3,038	141.3
営業外収益	994	809	
営業外費用	215	517	
経常利益	5,072	3,330	152.3
特別利益	107	525	
特別損失	424	1,916	
税引前中間純利益	4,755	1,939	245.2
法人税、住民税及び事業税	755	63	
法人税等調整額	1,144	959	
中間純利益	2,856	917	311.4

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注記事項) 第32期中間 第31期中間

1. 有形固定資産の減価償却累計額 23,394百万円 22,391百万円
2. 1株当たり中間純利益 41円04銭 26円36銭
3. 1株当たり純資産 767円12銭 1,458円83銭

※当社は2006年7月1日をもって普通株式1株を2株に分割しており、1株当たり指標については株式分割が当期首に行なわれたものとして算出しております。

中間損益計算書について

期間中における剰余金の変動は、2006年5月1日施行の会社法により新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「未処分利益」の計算区分は廃止されました。

株式の状況

(2006年9月30日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株

発行済株式の総数 73,242,596株

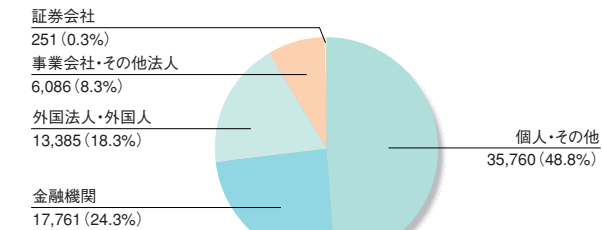
株主数 8,665名

大株主

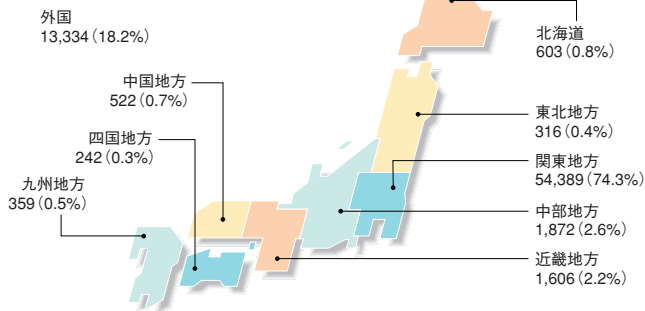
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
保志忠彦	10,444	15.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	7,463	10.7
日本マスタートラスト信託銀行(株)	4,642	6.6
(有)ホシ・クリエート	4,375	6.2
保志忠郊	3,069	4.4
保志治紀	3,020	4.3
バンクオブニューヨーク・ロイヤリティミテッドルクセンブルグ131800	2,507	3.6
米田龍佳	1,395	2.0
三菱UFJ信託銀行(株)	1,148	1.6
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505019	1,132	1.6

1. 当社は、自己株式3,642千株を保有しておりますが、議決権がないため上記株主から除いております。
2. 持株数、議決権比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

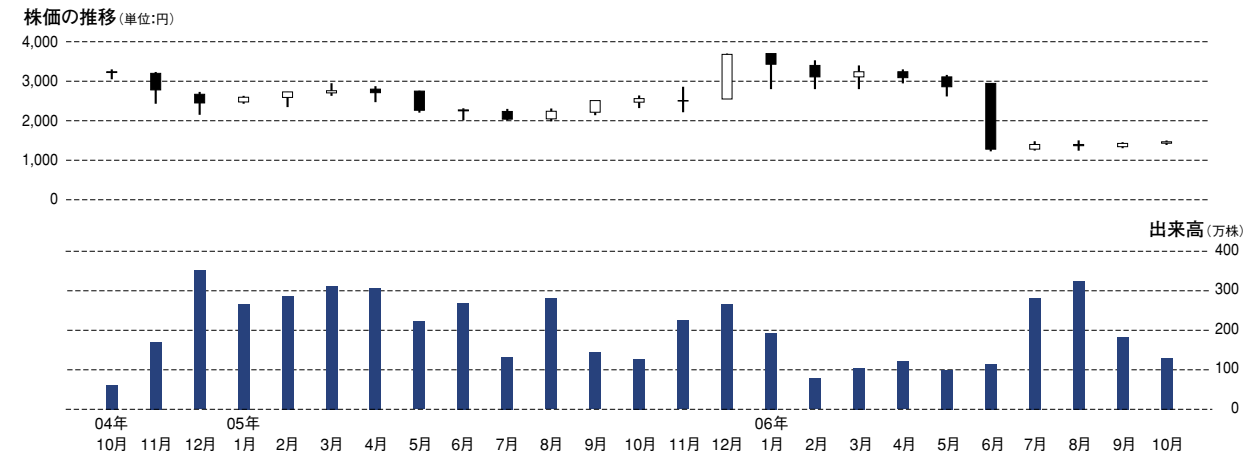
所有者別株式分布 (単位:千株/構成比)



地域別株式分布 (単位:千株/構成比)



株価(月足)チャート



(注) 2006年7月1日をもって普通株式1株を2株に分割いたしました。

会社概要

(2006年9月30日現在)

商号 株式会社 第一興商
(英文表記) DAIICHIKOSHO CO., LTD.
所在地 〒141-8701 東京都品川区北品川5-5-26
TEL. (03) 3280-2151 (大代表)
設立 1973年4月16日
資本金 12,350百万円
従業員数 当社 1,355名
グループ 3,352名
JASDAQ上場 1995年9月19日
ホームページアドレス <http://www.dkkaraoke.co.jp/>

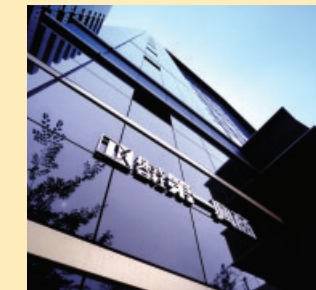
役員

(2006年9月30日現在)

代表取締役社長	兼上席執行役員	和田 康孝
常務取締役	兼上席執行役員	林 三郎
常務取締役	兼上席執行役員	緑川 智博
常務取締役	兼上席執行役員	畑 英爾
常務取締役	兼上席執行役員	根本 賢一
常務取締役	兼上席執行役員	山本 裕治
取締役	兼執行役員	熊谷 達也
取締役	兼執行役員	村井 裕一
常勤監査役		掛川 洋行
常勤監査役		高瀬 信謙
監査役		田村 澄治
監査役		有馬 伸治
執行役員		有馬 康之
執行役員		鈴木 俊一
執行役員		貞末 修彰
執行役員		三宅 彰
執行役員		黒川 憲太郎
執行役員		大久保 嘉英
執行役員		保志 忠郊

第一興商グループ 当社及び連結子会社 47社

(2006年9月30日現在)



主な事業内容

- 業務用カラオケ事業
- カラオケ・飲食店舗事業
- ゲートウェイ事業
- 音楽ソフト事業

●国内販売子会社 26社

(株)北海道第一興商	(株)埼玉第一興商	(株)東海第一興商
(株)釧路第一興商	(株)城北第一興商	(株)北陸第一興商
(株)道南第一興商	(株)台東第一興商	(株)京都第一興商
(株)北東北第一興商	(株)城東第一興商	(株)第一興商近畿
(株)東北第一興商	(株)城西第一興商	(株)京阪第一興商
(株)福島第一興商	(株)湘南第一興商	(株)兵庫第一興商
(株)常磐第一興商	(株)新潟第一興商	(株)九州第一興商
(株)群馬第一興商	(株)長野第一興商	(株)沖縄第一興商
(株)栃木第一興商	(株)静岡第一興商	

●その他国内子会社 10社

(株)ディーケーファイナンス	(株)ディーケー音楽出版
(株)日本クラウン	(株)ユニオン映画
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	(株)クラウンミュージック
(株)ファーストディストリビューション	(株)ズームリパブリック
(株)トライエム	丸萩洋酒工業

●海外子会社 11社

(株)韓国第一興商	北京必愛歌餐飲服務有限公司
第一興商(上海)電子有限公司	第一興商(北京)音楽文化有限公司
上海必愛歌音楽餐飲有限公司	Saha Daiichi Kosho Co.,Ltd.
上海星歌音楽餐飲有限公司	D.K.Enterprises (Guam), Inc.
上海申歌音楽餐飲有限公司	Daiichi Kosho (Singapore) Pte Ltd.
上海第一興商餐飲有限公司	

- (注) 1. Daiichi Kosho (Singapore) Pte Ltd. は休眠会社であります。
2. 北京必愛歌餐飲顧問有限公司は、2006年6月に北京必愛歌餐飲服務有限公司に社名を変更しております。